

# 令和4年度 卒業証書授与式 答辞

暖かい陽の光が降り注ぎ、桜の蕾も膨らみ始め、春の訪れを感じる今日、私たちは卒業の日を迎えました。本日はお忙しい中、多数のご来賓・保護者の皆様にご出席いただき、このような素敵な式典を開催していただきますことを卒業生一同、心より御礼申し上げます。

いま思い返してみると、信楽高校での過ごした三年間はあっという間でした。

新型コロナウイルス感染症で始まった私たちの高校生活、しかし、入学して早々に2カ月間の休校を余儀なくされました。友人という友人ができず、つらい日々を送っていました。学校からの課題やオンライン授業のおかげで家庭での勉強を進めることはできましたが、友人や先生との会えない日々は味気ないものでした。あらためて、今までのあたりまえの日常の感謝の気持ちを深めることができました。休校があけ久しぶりにみる友人との再会がとても嬉しかったことが思い出されます。学校行事の縮小や中止、部活動の大会等も中止となるなど私たちは我慢の日々を送りました。しかし、そのような中でも、規模を縮小したり、制限を設けたりして、新しいスタイルの学校行事開催の計画を練りました。新型コロナウイルス感染症に対応させた初めての試みは、過去の資料や経験もない中での大変な苦勞を伴うものでした。さまざまな工夫を重ね現状を打開しようと取り組む「変化に対応する力」を求められる一年でした。

2年次生では、各系列に分かれて専門知識や技術を学びました。考える力や教わった物を形にする技術を身に付けることができました。そして、新型コロナ感染症も徐々に落ち着き始め、学校行事も例年のように開催することができるようになりました。学年縦割りでの体育祭。先輩たちの指導のもと、踊った団アピールは、ついていくのに必死でした。2年生にして初めてだった体育祭は、競い合った集団競技などみんな協力し、やり遂げたのを覚えています。

2年次生の9月に予定されていた修学旅行。鹿児島方面への日程が新型コロナウイルス感染症の再拡大により2度の延期となり、このまま行けないのではないかと不安もありました。しかし、感染が落ち着き始めた11月には信楽高校の伝統の一つでもある文化祭が開催され、各クラスがステージ発表をし、「鬼滅の刃」「美女と野獣」の劇を熱演しました。恥ずかしいながらも人前に立ち、演技する難しさを感じましたが、やればできるということを知りました。新たなチャレンジを試みる「挑戦する」1年でした。

3年次生の4月。新学期が始まってすぐに、待ちに待った修学旅行に行くことができました。予定されていた行先は変更となりましたが、南紀白浜アドベンチャーワールド、ユニバーサルスタジオジャパン、鳴門海峡大橋を訪れた2泊3日。ここぞとばかりに友人たちと無我夢中で遊び倒しました。ホテルの部屋で友人と夜遅くまで語り合った時間はとてもかけがえのないものでした。あっという間の3日間でした。

最高学年としての体育祭を迎え、団長を中心に学年をまとめ、下級生のお手本となるよう頑張ろうと誓いました。団アピールのダンスを考えたり、競技の作戦を考えたりして学校全体を盛り上げました。団対抗リレーは燃えに燃えました。団が一致団結し涙したのが、私はとても印象深かったです。

最後の文化祭では、最優秀賞を目指して長期間企画を考えステージ発表をしました。「名探偵コナン」「アナと雪の女王」、いろいろな困難や苦勞が絶えませんが、仲間と共に乗り越え成功させることができました。緊張する中、私は主役を演じ、主演女優賞をいただくことができました。とてもうれしかったのを覚えています。

困難を友人と乗り越えたことでまるでひとつの家族のような一体感を得ることができました。校長先生がいつもおっしゃっていた「信高ファミリー」としての絆を強めることができた一年でした。

卒業後の進路について悩み不安を抱えていた私たち一人一人に親身に向き合ってくださった担任の先生、私たちがわかるまで熱心に教えてくださった教科担任の先生、快適な学校生活を送れるようにさまざまなサポートをしてくださった職員の方、学年を超えて仲良くしてくれた他学年の皆さん、数え切れない程の多くの方々に感謝しています。ありがとうございました。

そしてここまで育ててくださった家族の皆さん、思春期の私たちはなかなか素直になれず、私たちのためを思ってかけてくれた言葉も、なかなか受け入れることができませんでした。特に三年次生になってからは、進路を決めなければならないということもあって、話し合いの中で陰悪なムードになってしまうこともありました。それでも、どんな時も私たちを励まし、寄り添い、不安を和らげてくれる、その温かさが本当に嬉しくて、何度も心の中でありがとうと言いました。普段は照れくさくて言えないけれど、いつも感謝しています。「ありがとう」。私たちはだんだん自立していき、いつか親元を離れていきますが、それまでもうしばらくはお世話になります。

これから私たちは、それぞれの進路に向かって一步一步自分の足で歩いていきます。今後、大きな壁にぶつかったとしても、この信楽高校で得た多くの思い出、学び、誇りを人生の糧とし、力強く生きてゆきます。本当にありがとうございました。信楽高校のますますのご発展を心より祈念して、答辞といたします。